



Newsletter No. 35

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 T135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

令和4年度診療報酬改定について 有床義歯内面適合法の軟質材料の適用について 顎補綴の症例に限り、直接法が追加されました。

本年は保険改定の年であり、4月には令和4年度診療報酬改定が公開されました。改定に向けて、医療委員会では昨年一年を費やし、顎顔面補綴治療の種々技術を新技術として保険収載を目指し取り組み、米原理事長そして理事の皆様のお力添えのお陰で、本学会が主たる申請者として提出した新技術提案から2提案が採択されました。

1. 有床義歯内面適合法の軟質材料の適用について、直接法を追加（顎欠損症例に限る）
2. 広範囲顎骨支持型補綴の適用症例の明文化

2018年診療報酬改定で下顎無歯顎症例への軟質材料を用いたリラインの適用が間接法に限り認められたところから始まり、2020年には本学会からの技術提案により顎欠損症例にも適用拡大されました。さらに2022年度改定では、顎欠損症例では間接法のために顎義歯をお預かりすることは現実にそぐわない点を訴え、顎欠損症例に限り直接法での適用拡大に繋がりました。鼻孔や軟口蓋といった易出血性の箇所にアンダーカットを求めるなどの際に直接法による軟質材料の使用など、学会の先生方におかれましてはご活用いただ

けますと幸いです。

今回の申請書類の作成では、本学会雑誌に掲載された会員の先生方の論文、医療委員会作成の顎顔面補綴解説書および学術委員会の先生方のご尽力によるガイドラインの存在が根拠の一つとなりましたことに改めて御礼申し上げます。また、恒例の真夏の厚労省ヒアリングがZOOM開催となりましたので、松山副理事長、吉岡委員、佐藤裕二委員、大山委員、村瀬幹事がご参画のうえ臨むことができ、大変心強かったことにこの場を借りて御礼申し上げます。

以下、有床義歯内面適合法の軟質材料の適用について、本学会関連を抜粋して掲載させていただきますので、ぜひ算定にお役立ていただき、診療行為への適切な算定を漏れなく実施していただければと存じます。年間請求件数が少ないために項目が抹消される、などということのないように、ますますの顎顔面補綴診療のご尽力と適切な保険算定の実施について、会員の先生方のご協力を賜りたく存じます。

以下、2022年5月22日現在における参考文書の抜粋になります。今後疑義解釈などによるアップデートにて解釈が変更となることもございますが、ご参照ください。

使用中の顎義歯に対する、軟質材料による 有床義歯内面適合法の算定の流れ

1) 病名

MT（床適合）と顎欠損病名

2) 補診（新製以外）を算定

3) 請求（シリコーン系の場合）

1,200 点 + 166 点（材料費）+ 230 点（装着料）

合計 1,596 点の算定（新製義歯の装着日から半年以内の床裏装は、1,200 点が 600 点になります。）

4) 同日に調整を行う場合

顎補綴物不適合病名で、歯科口腔リハビリテーション料 1（3 その他）189 点の算定

5) 適用の頻度

記載がないため一般有床義歯に準じ半年に 1 回

6) 軟質材料を用いる場合の算定に当たっては、顎堤吸収の状態、顎堤粘膜の状態等、症状の要点及び使用した材料名を診療録に記載をして下さい。

有床義歯との相違点について

一般有床義歯と大きく異なるのは、直接法が可能なことと、新製時の軟質リライン材使用の扱いについてです。

口蓋補綴または顎補綴の場合には（旧義歯の使用歴に関わらず）必要に応じて軟質材料を使用して新製して良い（M025 の留意事項（4）との記載がありますので、顎欠損症例への適用の際は、これまでの適用の有無にかかわらず新製時にも適用可能です。新製時に適用する際には、顎義歯の新製にかかる点数 + 半年以内の有床義歯内面適合法の軟質材料となります。

本稿の校閲にご尽力くださいました、愛知学院大学 吉岡 文先生に心より感謝申し上げます。

（医療委員会委員長 隅田由香）

学会 HP に会員ページの開設を予定しています

広報委員会では、ニュースレターの発行とともにホームページの改編を担当しております。2022 年 2 月の理事会の承認を得て、現在ホームページに「会員ページ」を開設することを検討しています。会員ページには、「登録情報」「登録情報変更」「認定単位取得状況」「学会費支払い状況」「役職就任歴」が掲示される予定です。

認定医の申請にあたっては、申請前年から過去 5 年間で 3 回以上の学術大会等への出席（認定士は過去 3 年間で 2 回以上の出席）が、認定医・認定士の資格の更新にあたっては、5 年間に本学術大会等への出席、本教育研修会の出席が必須となっています。「認定単位取得状況」では、各自の更新受付期間が表示されるとともに、学術大会、教育研修会で提出した出席カードが反映され、過去の出席状況の確認が容易に行えるようにしたく思っています。

また、「学会費支払い状況」や入金先口座も掲載をされていますので、会員ページの情報から、会費支払いに関する情報を一度に得ることが可能になります。

運用開始は 2022 年 8 月頃を予定しております。詳細については別途メールにての案内を予定しております。会員ページに関するメールを受信されましたら、一度ログインをしていただき、登録内容、認定単位取得状況、学会費支払い状況をご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

広報委員会は、今後も会員の皆様がご利用しやすいホームページを目指して（予算と戦いながら）改編を行っていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（広報委員会委員長 中島純子）



2021年度優秀論文賞受賞者の声



Manjin Zhang

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
顎顔面補綴学分野

この度、2021年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という素晴らしい賞を頂き、とても光栄です。丁寧に査読をして下さいました編集委員会の先生方、そして選考をして下さいました学術委員会の先生方に心より御礼申し上げます。

私は、学位の研究テーマに上顎欠損症例を対象とした臨床研究を選びました。諸所の実験に御協力くださいました患者さんは優しく、お蔭様で研究を継続できました。そして、隅田由香准教授、服部麻里子助教、並びに医局の先生方のご指導を賜り、最終的に本論文を含め Thesis の形にまとめることができ感謝しています。

本論文では、同じ上顎欠損患者において2つの口腔内スキャナーを使用した際のデジタル印象採得を比較することを目的として行いました。それぞれのスキャナーにより得られた3Dデータの面積を、3D分析ソフトウェアを使用して計算し、スキャナー間での差を調べました。残存歯部分はほとんどの症例でスキャンできましたが、上顎欠損部分や軟組織部分のデータを全て得ることはできず、どちらのスキャナーでも上顎の3Dデータを完全に得るには至りませんでした。しかし、本論文はデジタル印象や3D評価を顎顔面補綴に応用していくまでの可能性を示すことに寄与できたと思います。今後は取得したデジタル印象の臨床上の応用についての研究を継続していきます。

最後に、日本顎顔面補綴学会の各先生方に御礼を申し上げると共に、本学会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

関連学会報告

第23回日本口腔顎顔面技工学会学術大会

2021年11月13日(土)に第23回日本口腔顎顔面技工学会学術大会が北海道大学病院の西川圭吾先生を大会長にオンラインで開催されました。昨年はコロナウイルス感染症の拡大による延期で2年ぶりの大会でしたが、特別講演、宿題講演、シンポジウム、一般口演が5題といつもより小規模ながらも62名の参加がありました。

特別講演は北海道大学の上田康夫先生による「口腔顎顔面技工—これから求められる技術やスキルは何か—」との演題で、コンピュータのデータ構造に対する理解、データを扱うプログラミングスキルとスピーディーに扱う為のアプリケーションスキルが重要であると説かれました。

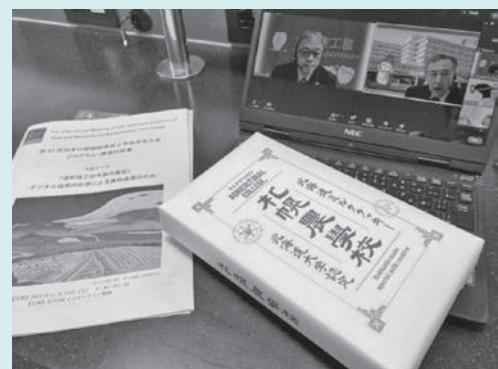
宿題講演は愛知医科大学病院の森下裕司先生が今年4月に発足したエピテーゼ・プロテーゼ専門の整形外科体表面補綴外来と研究室開設の経緯や活動方針、今後について語られました。

どの講演にもデジタル技工が話題に上がりデジタル化の波をひしひしと感じられる大会でした。

今回はオンラインのため完全事前登録制とし、参加者には開催に先立ちプログラム抄録と共に北海道大学のクッキーが送られてきました。これは北海道気分を味わってもらおうという大会事務局の粋な計らいによるもので、食べながら講演を聴いていた方も見受けられました。

次回は2022年秋に鳥取大学を主幹校に開催される予定です。

(広報委員 宮本哲郎)





Newsletter No. 35

Maxillofacial Prosthetics

日本デジタル歯科学会第13回学術大会報告

2022年4月23日(土)～24日(日)にタワー ホール船堀での現地開催とオンライン開催のハイブリッドで行われました。会場は1つおきの席となってソーシャルディスタンスが確保され、最大で会場の40%ほどが埋まっていたようです。一方、ポスター会場はコロナ前のような盛況ぶりで、久しぶりに対面での活発な議論が行われていました。

プログラムは、各種講演が4つ、特別セミナー、4つのシンポジウムのほか一般講演とポスター発表等が組まれていました。補綴系ではCAD/CAM症例やデジタルデータの集積についての提案がなされました。放射線や病理診断、インプラントや顎変形症手術におけるデジタルワークフローについての発表が多く見られ、歯科用フェイススキャンを用いたデジタル設計やAI技術についてどのようなものが基礎から解説した特別セミナーは大変勉強になりました。顎顔面補綴治療に関しての発表は、デジタルデンチャーの現状の講演で、すべてデジタルで製作した上顎顎義歯の製作についての研究症例が示された程度でした。模型なしの補綴治療のデジタル化はもうすぐここまで来ていると感じた学会でした。

(広報委員 大木明子)

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会
 委員長 中島純子
 委員 猪原 健、大木明子、関谷秀樹、
 堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文
 E-mail : max-service@onebridge.co.jp

関連学会のご案内

●第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

会期：2022年9月23日(金)～24日(土)
 大会長：倉智雅子(国際医療福祉大学成田保健
 医療学部言語聴覚学科)

会場：幕張メッセ

【運営事務局】日本コンベンションサービス
<https://site2.convention.co.jp/jsdr28/>

●69th Annual Meeting of American Academy of Maxillofacial Prosthetics (AAMP)

会期：2022年10月31日(月)～11月1日(火)
 大会長：Dr. Thomas Salinas (Mayo Clinic)
 会場：Omni Austin Hotel Downtown

Austin, Texas, USA

<https://www.aampconference.com/conference-information/registration-2022/>

●第36回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

会期：2022年11月19日(土)～20日(日)
 大会長：山崎 裕(北海道大学高齢者歯科学)
 会場：北海道大学 学術交流会館

<http://www.jaor.jp/meeting/>

●第26回日本顎顔面インプラント学会学術大会

会期：2022年11月25日(金)～27日(日)
 大会長：近津大地(東京医科大学口腔外科学分野)
 会場：東京医科大学病院
 【運営事務局】(株) JTB 茨城南支店
<https://jami26th.com/index.html>